

「第24回精神保健福祉フォーラム in 水戸」開催 ーザ・ヒロサワシティ会館ー

「精神保健福祉フォーラム in 水戸」に参加して

10月26日水戸で行なわれた「精神保健福祉フォーラム in 水戸」にNPO法人ふれあいを代表して小川、家族会を代表して秋山会長両名で参加してきました。午前中は開会式の後、常務理事の竹ノ内様より県連の活動報告が有り、そのあと当事者（今はメンタルさんと言うそうです）のスピークアウトが有りました。各施設から選抜されたメンタルさんのチカラ強いメッセージが発表されました。午後からは歌や楽器演奏手話歌など8チームの発表が有りました。日立ハートネット市民の会ではラジオ体操第1と第2の演技が有り会場の観客も立ってラジオ体操を行っていました。体操を考案した方が日立市出身だそうです。



小川記

虹色ファーム秋の作業 day

10月4日、上記の行事が催されました。ボランティアの方11名、通所生10名、スタッフ2名という大勢の参加をいただき、作業がはかどりました。ありがとうございました。秋冬の作物の栽培や11月5日の「虹色ファーム de バザール」に向けて準備が整いつつあります。作業の後は、ほっと cafe の美味しいランチを全員でいただきました。次回の作業 day もよろしくお祈りします。



ふれあい秋のイベントのお知らせ

第3回

虹色ファーム de
バザール

11月5日(土)

去年に引き続き「虹色ファーム de バザール」を開催します。参加希望の方は電話でお申し込みの上お越しください。

(TEL 0280-48-5878 平日 10:00~15:00)



今年のバザールでは CHFK3 (軽音楽バンド) の演奏の間に、ビンゴ大会を開催します。またイントロクイズも行われます。いろいろ賞品も用意していますので、お楽しみに！

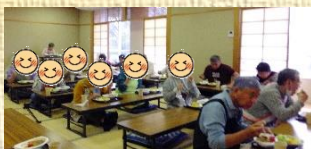
オータム ガーデンフェス開催～10月6日（木）～

家族会特製カレーをいただきました

※ふれあい賞とは、最も長くふれあいでものごした方上位5名に贈られる賞です

令和4年度の上半期ふれあい賞は、休まず毎日朝から通所した

SさんとOさん2名が同率1位でした。毎回受賞されている常連の2名です♪ 受賞された皆さんにはランチ券が送られました。



雨天のため残念ながらかまどでの調理はできませんでしたが、家族会のみなさんが作った美味しいカレーと彩り豊かなサラダプレートをお馳走になり、おかわりする人が続出するほど皆お腹いっぱい食べました。(羽兼支援員)

ふれあい賞を受賞されたSさんのコメント

ふれあい賞同率1位を獲得できました。のど自慢で100点を取れなかったのは残念だけど、みんなで遊べるゲームができて良かったと思います。商品がもう少し豪華だったらなお良かったと思います(笑)



のど自慢大会 今年の優勝者は…

今年のオータム、ガーデンフェスカラオケ大会は通所生10名、家族会様から1名スタッフ2名の合計13名の参加で行われました。賞品は、『ほっと cafe』で使える割引券です。1位500円2位300円3位100円を目指して頑張っていました。

通所生の方たちの歌が年々上手になり、今年は100点を出された方が5名いました。その為、カラオケ大会初となる決勝戦を行いました。1曲目と違う歌にいただいたのにもかかわらず、高得点続出で結果は1位98点2位97点3位90点となりました。(横山審査委員長)



レクリエーションゲーム～家族会・ドライバー・通所生の村度なき戦い～



『うちわでねらえ! ペットボトルボーリング』と『お手玉DE玉入れ』の2競技を実施しました。雨天のため、室内での開催となりましたが大勢の方に参加していただきました。

優勝賞品をかけてほかの方の様子を参考に高得点を狙う人・ひたすらわが道を行く人など様々でした。通所者・ドライバーさん・家族会の方々と共に会し競うことはとても楽しいものとなりました。各賞の商品は施設長厳選の防災グッズをプレゼント。参加賞はうまい棒でした(本多審査委員長)。

■研修報告■

家庭内での
良いコミュニケーションの
とりかた

すずらん会と古河保健所共催による講演会「家庭内での良いコミュニケーションのとりかた」を境町役場で拝聴させていただきました。鈴木先生のお話によると、病気の回復に必要なのは自分の力(対処法)と薬、周りのサポートが不可欠で、まずサポートする側(家族)のメンタルヘルスが健康であることが重要であり、そのうえに成り立つ「良い関わり方」を教えてくださいました。具体的な実践法は分かりやすく今後活かしたいと思います。質疑応答では各家庭での対応の相談もあり大変参考になりました。(山崎支援員)

10月12日 主催：古河地方家族会すずらん会 共催：茨城県古河保健所 講師：茨城県こころの医療センター 精神保健福祉士 鈴木寛氏

認知症サポーター養成講座

セミセルフレジにリニューアルしたスーパーがある。混雑したレジに並んでいるとお年寄りが支払い機の前で困って立っている。レジの女性は忙しそうに手を動かしながら「現金を機械に入れてください」と声をかけている。私の番になり、お爺さんの支払機をみるとあと502円不足とある。「502円足りないですよ」と声をかけると「小銭はどこに入れるんだ?」とか細い声で聞かれた。無事小銭を入れ、7分近くかかり清算を済ませた老翁の足元には黄色い水たまりが出来ていた。レジの女性に小声で「先ほどのお爺さん、漏らされたみたいですので拭かれたほうが…」と声をかけると顔をしかめた。問題はこのお年寄りだろうか? ノーマライゼーションは? 配慮はどうだったのか?

認知症でも障害があってもひきこもりでも困っていることを躊躇なく伝えられる共生社会の実現のためには、まず知識を得る、理解することが必要と思っています。今回の講座で認知症サポーターとなり、私も「人間杖」のひとりとなれるように応援していきたいと思いました。

(山崎支援員)

10月13日 令和4年度 認知症サポーター養成講座 古河市高齢介護課 全国キャラバンメイト連絡協議会

